

第2期第16回生涯学習センター運営協議会 議事要旨

〔日 時〕2015年9月25日（金）14:00～16:00

〔場 所〕町田市生涯学習センター 6階学習室2

〔出席者〕※敬称略

委員：石川清（会長）、井手伊澄、小川久江、押村宙枝、佐合昭浩、辰巳厚子、富川尚子、西原要
四郎、布沢保孝、二見秀太郎、柳沼恵一、吉川雅子 以上14名

事務局：稲田センター長、鈴木担当課長、松田事業係長、高木担当係長、村田担当係長、小林担当係
長、小山主事（記録）

〔欠席者〕岩本陽児、太田美帆、貝原俊明

〔傍聴人〕2名

〔資 料〕・第16回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・市民大学を見学して感じたこと、気づいたこと（第15回運営協議会意見抜粋）（資料1）
- ・市民大学の検討事項（当日配布）
- ・2015年度生涯学習センター事業 企画書 資料2～20
- ・2015年度生涯学習センター事業 企画書兼事業評価シート 報告1～報告2
- ・東京都公民館連絡協議会の活動について 報告3
- ・2015年度生涯学習センター運営協議会 事前提出意見（当日配布）

<市民大学について>

事務局：一資料1の説明一

今回は、市民大学のコンセプト「あなたを励まし、地域を育てる」の「地域を育てる」の具体的な仕掛けや方策についてさらに議論を深めていただきたい。

委員：一当日配布資料「市民大学の検討事項」の説明一

市民大学を見学した結果、市民大学のコンセプト「あなたを励まし、地域を育てる」の「地域を育てる」が不十分ということが挙がった。今回は、「地域を育てる」というイメージが沸いていない委員もおられると思うので事例紹介を行い、共に考えていきたい。「あなたを励まし、地域を育てる」の「あなたを励まし」はインプットする学習で、「地域を育てる」は学んだものを地域活動に活かす循環型の学習だと捉えている。生涯学習と地域活動は切り離されないものであるが、生涯学習センターとして地域活動に対しどういった方向性を打ち出して行くのか、地域活動を扱う町田市関連部署が多数あるなかでどういった連携、住み分けをして行くのかについても、議論していきたい。

まず、「地域を育てる」のゴールを検討する。社会をつくる学びの方向性としては、①コミュニティの再生・創造（コミュニケーションのとれる関係をつくる。ソーシャルキャピタルの醸成）、②活動へつながる市民性を養う、③（「住民自治」→「まちづくり」→「市民協働」）に参画するという3つのステップがある。他区市町村を見ると、①～③まで全部やっているところ、1つだけやっているところと様々である。生涯学習センターが地域活動に近づくのであれば、行政の他部署や自治会・町内会、NPOなどと連携を取って行くことはこれから必要ではないか。また、他区市町村でも市民大学は60代以上の参加者が多く、若者を巻き込むことは悩ましい問題になっている。

ソーシャルキャピタルから市民協働までのステップのなかで、段階的な事例を資料にまとめた。主体的に学ぶ最初のステップであるのが座間市のあすなろ大学で、シニアが中心に自分でテーマを決め調べ学習の形式を取っている。次に企画から運営までを市民が主体的に取り組むのが足立区のあだち区民大学である。さらに、地域の課題を学習し（インプットする学習）、現場に出て行く（アウトプットする学習）という2段階形式かつ市の課題に直結しているのが浦安市の市民大学、江戸川区のえどがわ大学がある。浦安市の市民大学は、規模の拡大のため、生涯学習課と市民協働課からそれぞれ職員が出向して運営しているため、修了後の姿もはじめから想定されている。杉並区のすぎなみ地域大学では市民活動そのものを支援し、NPOの立

ち上げ方など具体的なスキルを学ぶことができる。また、若い世代を多く集客している点で非常に注目されているのが渋谷区のシブヤ大学である。個人の自由な学びや関心からグループをつくりSNSで人集めを行うため会員数は膨大になっている。大学生が企画側にまわり良い循環がされ、キャンパスを持たない大学であり街全体がキャンパスという点が特徴である。

市民活動、地域活動にあまりにも特化した市民大学をやりすぎると、ついていけない層が出てしまう。しかし、町田市では市民活動、地域活動がかなり多いので、他の区市町村以上に行きすることも多いのではないかという可能性も感じる。ここで思い切った変化をするのか、段階的に積み上げて行くのかを迷うので、学んだことを地域に活かすというのはどういうことなのかを皆さんと話し合っていきたい。

(意見・質問)

委員：「市民大学をやりすぎると」という表現があったが、市民大学のコンセプトのうち「地域を育てる」部分である学んだものを地域活動に活かす内容に寄ったプログラムをやりすぎるという意味と捉えてよいか。

委員：現在のプログラムをすべて市民活動、地域活動にあまりにも特化したものにしてしまうと、引いてしまう方も出てきてしまうので、取り入れ方の検討が必要である。市民大学の町田市における位置づけは他の区市町村には真似できない部分がある。関係部署と連携が進んでいたり、市民活動を既にされている方に入っていただくのであれば、修了生が学校教育の現場に入っていくなど可能性も広がると思う。

委員：シブヤ大学は若者を集客しているというが、具体的にはどういった学びをしているのか。

委員：文化的なものでは、音楽、映画、読書など大変多岐に渡っている。企業、学校、民間の商業施設、文化施設など様々な人との繋がりから新しいものが生まれるのではないかという目的がある。

委員：渋谷区という地域特性はあるのか。

委員：やはり、「渋谷だからできる」点はある。現在、シブヤ大学をお手本にした大小様々な市民大学があるが、楽しいと思える仕掛けが重要である。学べる点はあると思うが、そっくり活かすのは難しく、研究の必要がある。

会長：渋谷区内にシブヤ大学の拠点（場所）はあるのか。

委員：街全部がキャンパスという発想で、公共施設も使うがカフェや企業の会議室、デパートの催事場など様々な場所で開催されている。また、宣伝などフォローをする職員は実質2～3名で、企画したい若者を集めて良い循環を作っている。

委員：町田市は市民活動・地域活動を育てる土壌があり、様々な形式の市民大学が展開できる可能性は高いが、大きく内容を変えると反発もあるかもしれない。資料の最後に要求課題と必要課題として、カルチャー系、助け合い系、パラダイム変革系と分けて掲載されているが、現在の町田市の市民大学でも取り組んでいる内容である。問題にしているのは、「地域を育てる」活動に繋がっていない点であり、市民ニーズとの違いがあるのではないか。バランスの取り方はどのように考えているか。

委員：カルチャー系のプログラムは既に沢山いらっしゃる団体やボランティアの方にどんどんやっていただきたい。助け合い系、パラダイム変革系といった社会課題に特化したプログラムは、内容が難しく集客に不安があるのだとしたら、入り口はカルチャー系でもよい。例えば、他市で大河ドラマを題材にした生涯学習で、地域のつながりや盛り上げのきっかけとなるケースもある。入り口や見せ方を精査すればいろいろな可能性は考えられる。また、社会課題に特化したテーマでよいと思うので、他市を真似ではなくどういった街をつくりたいかをイメージすることにより、学習の見せ方は出てくるのではないか。

委員：各段階でうまく仕組みを作り、身近なところできっかけを作っていくという話だが、今の市民大学でもやっているのかと思うが、いかがか。

委員：新宿区のエコリーダー養成講座は4つのプログラムで構成されていて、1番目は共通の基礎講座があり、2番目に本講座として各分野の学びに分かれる。3番目は関連講座として地域の関連施設に出向き現場を知る見学主体の講座形式がとられ、最後に体験講座としてインターンシップの形式がとられている。地域に出て行くことに力を入れるのであれば、現場を知ることと、

実際に活動してみることを現在のプログラムに取り入れてもよいのではないか。

会長：「地域を育てる」という点が不十分であるが、あまりにも特化するのには問題があるということである。

委員：「地域を育てる」というのは、市民大学で学んだことを地域の人に広めることでよいのか。例えば、健康学講座の伝道師カードを活用して学んだことを広めることが該当するという認識でよいのか。

委員：学んだことを広めるだけではなく、地域をどういった方向性やビジョンにしていきたいのかがあって、「地域を育てる」ことになるのではないか。市民大学を含めた生涯学習センターの事業や講座は非常に良いものであるが、地域をどういった方向性にしていくのか、ビジョンが見えていない。町田市全体で「地域を育てる」ビジョンを合わせる必要がある。岡山や板橋のESDのように、子孫の代まで持続し残したい街づくりといったはっきりとしたビジョンがないとトータルで発揮できないのではないか。町田市がどこに向かうかを考え、その中で市民大学がどうあるべきかを考えるべきである。

委員：市民大学が出来て20年以上経ち、受講生も多く修了生団体も40団体以上になる。福祉、健康など地域で色々な活動がされているが、それが見えていないのではないか。ビジョンは大事だが、その前に何をやっているのかが見えず、市民大学についても理解されていないのではないか。市民大学のパンフレットにはコンセプトが記載されているが、講座でも説明する必要がある。また、修了生団体の具体的な活動なども紹介すれば、受講後の道筋も見えやすいのではないか。

委員：私も修了生団体、史考会の一員である。市民大学での学習は座学のみだったが、今年度の野外学習プログラムは修了生団体である史考会が受け継いで行った。また、活動の結果は冊子を作り、教育委員会や地域に無償で配布している。

委員：私としては「地域を育てる」には2つの意味があるのではないかと考えている。1つ目は、地域活動の担い手を発掘し育成することである。これは市民大学の使命であり、生涯学習センターの役割になる。2つ目は育成された人材が、目標を持って地域で活動をしていく、得たものを地域で発揮して行くということである。資料1の記載にも通じるものがあると思うが、いかがか。

委員：「地域を育てる」については、地域にどのように展開するかが問題である。私は健康学の後継講座の活動をしている。健康学講座は身体を動かす講座で地域に展開しやすいが、市民法学や人間科学講座はどのように地域に展開するのか。受講生が地域を育てる部分まで踏み出すのは、どの程度の人たちに展開するものなのか。自宅で家族に話すのでも地域への展開になるのではないか、受講者のうち何人かが地域活動に繋がれば良いのではないかと考える。

委員：子育て、高齢者、障がい者、健康、環境、防災、防犯、まちづくり、平和人権、共生社会といった分野の地域課題に対して市民大学の講座がマッチングしているのを見たら、健康学、福祉は地域の課題に展開することができても、ダイレクトに繋がらない講座もある。受講生が楽しみながら地域課題と繋がることができる流れを構築して行く必要がある。現在の市民大学で学ばれていることは基礎的な社会的知識を得るものであり、否定はできない。良い点を活かしながら特定のテーマに基づいて少人数で課題発見、解明、発表などをして突っ込んだ学びを行うコースを用意してもよいのではないか。そういった点で、陶芸入門、ロクロ講座は地域への展開という点で疑問を感じる。これだけ歴史ある人気のコースなので、新しいかたちで役割付けをすれば面白いと思う。

委員：1、2年学び地域で展開するのは難しいことである。しかし、どの講座も良い結果を出しているのが受講生が学んだ後に修了生団体の活動を紹介し投げかけることが必要ではないか。かつては担当職員がサークル立ち上げの呼びかけをして、団体数も多くあった。なぜ、現状のように減少傾向にあるのかと考えることが、問題解決の早道になるのではないか。講座で学んだ後の支援や呼びかけがあれば、学んだ人たちが町田市に何が必要かを考えると思う。そういった方向付けをこの会で提案していけばよいと思った。

会長：皆さんの「地域を育てる」のゴールが大きく違っていた。今回は、ゴールをどこに置くかを話し合っていきたい。

<協議事項>

1、2015年度生涯学習センター事業の企画について

(1) 思春期の子どもと向き合う保護者のための講座・小学生の子どもの保護者のための講座

事務局：－資料2・3の説明－

富川委員から頂いた事前質問「『宣伝方法を工夫する』とあるが、どの様な方法を考えているのでしょうか。」については、市内小中学校へのチラシ配布を考えている。

(意見・質問)

委員：資料2・3について対象が主に小中学校の保護者と小学生または就学前の子どもの保護者と異なっているが、「生涯学習推進計画における位置づけ」欄は同じになるのか。小学生の保護者のための講座は、小学生の保護者に限定で中学生の保護者は対象にならないのか。

事務局：対象は異なるが、生涯学習推進計画における位置づけは家庭教育支援事業として子どもを持つ保護者を対象とした学習機会の提供であり、乳幼児、小学生、思春期の4つの段階に分け年間で展開しているが、位置づけは全て同じになる。また、中学生の保護者は対象にしないものとする。

(2) 二胡とピアノによるコンサート・姉妹バイオリンデュオコンサート

事務局：－資料4・5の説明－

コンサートは非常に応募が多いため、広報まちだのみで周知をする。

(意見・質問)

とくになし

(3) 利用者交流会企画「生涯学習センターってなにをするところ？」

事務局：－資料6の説明－

(意見・質問)

委員：年に1度の利用者交流会だけでは不足であるということで、生涯学習センターの役割を踏まえ、たうえで講演会の企画をすれば、内容の充実、様々な人の集客に繋がると思い企画している。運営協議会のメンバーや市民大学の修了生団体を含め様々な活動をしている方で力が合わせられれば良いという狙いもある。

事務局：時間は午前中（10時～12時）に実施する。）

(4) 市民企画講座「『性の多様性』を認め合うコミュニティをめざして』

事務局：－資料7の説明－

全て土曜日午前中で保育付きで実施する。

(意見・質問)

とくになし

(5) 保健所共催講座「ひきこもる心を理解する講座」

事務局：－資料8の説明－

(意見・質問)

委員：時間は何時から開始か。

事務局：全て火曜日午前中（10時～12時）で、1回目のみ基調講演となりホールで行う。

2、事業評価について

(1) 町田市終戦70年平和祈念事業

事務局：－資料9の説明－

辰巳委員から「会場、団体等センター外の方々と協力でき、平和活動が広がったことは評価できる。こうした平和活動を、センター内に留まらず、出前講座として小中生に広めることを願

います。」と事前意見をいただいた。

(意見・質問)

会 長：来場者とまちだサポーターズを合わせた動員総数が多く、素晴らしい。

事務局：まちだサポーターズが常駐したことにより、声掛けなど行うことができ参加数が伸びた可能性もある。町田第二小学校の協力も得ることができた。

(2) 市民大学前期「まちだの福祉」・「町田の郷土史Ⅰ」・「“こころ”と“からだ”の健康学」・「現代人間科学講座」・「まちだ市民法学」・「陶芸入門講座」・「陶芸電動ロクロ体験講座」・「まちだd eエコ・ツアー」

事務局：－資料10～17の説明－

◆「まちだの福祉」

事務局：辰巳委員からの事前意見「地域で支え合う仕組みについて知るといいう点では良かったようです。学習した方々の意欲が高まったところで活動につなげられるような工夫もほしいところです。今後は既に活動されている団体へのインターンシップなどを加えてみてはどうでしょうか。」をいただいた。また、富川委員からの事前意見「出席率も高く、受講者の興味が持続できるプログラムであったことがうかがえる。後期の講座への参加につながっていけば、なお良いと思う。」といただいた。当初は介護保険関連の内容を期待する方が多かったが、事後の満足度は藤の台団地の取り組みの関心が高くなった。年齢層は70代が40%、30、40、50代合わせて25%であった。

◆「町田の郷土史Ⅰ」

事務局：辰巳委員からの事前意見「町田の歴史の学習講座は、センター事業の一つの柱である。内容が充実し、修了生の団体等も増えてきたので、企画に参加してもらってはどうか。「取組の目的」の「社会問題に対する意識を高める」というのには、若干の違和感がある。」といただいた。富川委員からの事前意見「応募者の多さ、出席率からも関心の高さがうかがえる。土日昼間の開催から、平日夜間への変更で、受講者の年齢層や男女比に変化は見られたのでしょうか。」をいただいた。50名定員に66名の応募となった。土日昼間開催から、今年度は平日夜間開催に変更をしたが参加者に大きな変化はなく、男性7割女性3割程度となった。20代の参加が増えたことから若年層には平日夜間のほうが参加しやすかったようである。前期の受講だけで修了生団体への加入者が5名程いた。

◆「“こころ”と“からだ”の健康学」

事務局：富川委員からの事前意見「ことぶき大学とのバランスを考えると、60歳未満を優先としても良いと思う。」、辰巳委員からの事前意見「ことぶき大学と同じ層の関心が強いのであれば、「取組の目的」を「社会問題に対する意識を高める」＝「健康による医療費削減」「健康寿命をのばす」など、一層シニアに特化したものにしてはどうだろうか。「伝道師カード」という発想は面白いが、こうした健康オムニバスの講座を受講して、学習内容を地域に広めるには、やや心もとないのではないのでしょうか。」といただいている。受講者の年齢層は、60代44%、70代41%、40代、50代も複数おり、80代の方もいらした。応募者が多く、10名程増やし定員60名にした。

(意見・質問)

会 長：事前意見に若年層を優先してはどうかとあるが、いかがか。

事務局：抽選を行う場合は、市民、市内在学在勤者を優先にしている。イベントダイヤル受付では年代を聞くのを控える要望がある。ことぶき大学とのバランスを考えるとという明確な理由があれば、イベントダイヤル受付でも優先対応をすることはできる。(高木担当係長)

事務局：差別化して前期は60歳未満と設定し、後期は60歳未満を優先にしたら応募者が減ってしまったことがあったので、難しい現状がある。

◆「現代人間科学講座」

事務局：富川委員からの事前意見で「『個の学習』としての成果は高いと思われるが、期待できる効果にある『地域における人間関係を紡ぎだす～』といった点についての効果は不明瞭であると思う。」といただいた。講座後の懇談会には10名が参加した。昨年度は医療に特化した内容だ

ったが、今年度はテクノロジーや福祉など取り入れ関心を広げられたと思う。

◆「まちだ市民法学」

事務局：富川委員からの事前意見で「各回の内容は充実していることがうかがえる。受講生同士の関係づくりを促すのであれば、オプションではなく講座の中に意見交換する場を何回かきちんと設けた方が良いと思う。」といただいた。100名定員で人数が多く、会場もホールでロールバックチェアーを使って行ったため、グループワークがしばらく取り組むことができなかった。憲法改正などタイムリーなタイミングだったので、非常に関心が高く20～50代が48%と若い世代や女性の参加も多かった。最終回のアンケートでは、「継続して学習したいが、個人で学習していきたい」という方が多かった。

(意見・質問)

会長：テーマと時間さえ当てはまれば、若者も参加するという証明である。

事務局：公開講座には木村草太氏を講師にお迎えすることができ、受講者の満足度も高かった。

委員：憲法や安保関連法など話題になった頃の開催であるが、関連した質問や討議などは行われたのか。

事務局：木村草太氏や他の講師に対しても質問が出ていた。講師に自分たちの団体に講演をしてもらえないかなどと話していた受講者もおられた。

委員：地域への展開という話まではいかなかったのか。

会長：最終回の五十嵐氏は直接民主制の大事さ、地域に根ざすことの大事さを述べられていた。

委員：これだけ良い評価がされているのに、なぜ効果指標に「B」があるのか。

事務局：アンケートの回収率が少なく、交流の集まりも悪かった。やり方が悪いのか検討をしている。

委員：効果指標はアンケートが根拠になっていることがわかった。企画書兼事業評価シートにアンケートの回収率が書いてあると、興味があってアンケートに答えた割合もわかり、数字の見方も変わってくると思う。

委員：「まちだの福祉」講座についても効果指標が75%でもオールAがついていて、全く同じことを考えていた。企画書兼事業評価シートにもう少し工夫があってもよい。

◆「陶芸入門講座」

事務局：グループ作業が多いため、受講生同士のコミュニケーションが盛んに行われた。

◆「陶芸電動ロクロ体験講座」

事務局：応募者が多く、抽選を行っている。参加者層は比較的若く、60代が57%、その他40、50代も多い傾向にある。

(意見・質問)

会長：「陶芸入門講座」、「陶芸電動ロクロ体験講座」は、連続受講してはいけないのか。

事務局：どちらも初めての方が優先である。

◆「まちだdeエコ・ツアー」

事務局：富川委員からの事前意見「土日での実施は、高い出席率を望むことは難しいかもしれないが、幅広い年齢層が参加でき、「子ども参加歓迎」など、家族で学ぶ機会も提供できるメリットは大きいと感じる。」をいただいた。子どもの参加歓迎と設定したので、4組の家族連れの参加があった。今後もこのような取り組みを行っていきたい。

(意見・質問)

とくになし

(3) 乳幼児の保護者のための講座

事務局：一資料18の説明一

富川委員からの事前意見で「振り返りの回が途中にもあるのは良いと思う。子どもにはそれぞれ個性があり、第2子、第3子の子育てで悩む保護者もいる。第1子に限定して欲しくはない。」といただいている。全8回のなかで4回目と7回目で振り返りを設けた。「第1子に限定して欲しくはない。」というご意見については、対象を検討したい。また、夏休みで参加が難しいケースもあったので日時の検討も併せて行いたい。

(意見・質問)

委員：参加者のなかでサークルに発展はしたのか

事務局：していない。

委員：「お子さんの対象年齢を3歳未満から就学前までに広げたが、3歳以上の子どもを持つ保護者の応募が少なかった」と資料にあるが、この日時設定で全回参加するとなると3歳以上の子どもを持つ保護者は参加できないと思う。午前保育がある幼稚園もあり、お子さんがいる親御さんにも参加を望むのであれば、曜日の設定をもう少し考えなければならないと思う。ただ、毎回応募者が集まる講座なので、対象を広げるべきかも含めてご検討いただきたい。（富川委員）

事務局：以前、運営協議会で申し上げたが、幼児の保護者のための講座を実施しない予定だったので、今回対象を広げた経緯がある。今後改めて検討していきたい。尚、幼児の保護者のための講座は開設の目処がその後立った。

委員：講座8回目にある編集会議とは何を行ったのか。

事務局：これまでの話し合いなどを壁新聞にまとめる会議と作業を行った。保育室前に壁新聞を掲示してあるので、ぜひご覧ください。

（４）浴衣着付け講座～ゆかたで夏を楽しもう！～

事務局：－資料19の説明－

（意見・質問）

委員：女性限定講座なのか。

事務局：更衣できる部屋があれば、男性も開催できる。和室が2部屋しかないため、現状では女性だけの講座になっている。

委員：ぜひ、男性限定でもいいので、実施していただきたい。

委員：カップルで花火を観に行くので、若年層の男性にも浴衣は人気がある。

委員：中学生の参加はどのくらいあったか。

事務局：今回はいなかった。

委員：家庭科の授業で浴衣の着付けのカリキュラムがあるが、時間数が足りなく実際にはできない現状がある。また、着付けができる教員ばかりではなく外部の講師をお呼びすることもありますが、子どもたちに人気があるカリキュラムである。今回、小山中学校で講座のチラシをPRした。

事務局：以前は、親御さんの付き添いやお友達同士で参加する中学生もいた。

委員：プログラムの妥当性が「B」評価になっているが、男性の参加ができない点が原因か。

事務局：かなり広報には力を入れたが、その割には参加者が伸びなかったという点で「B」評価になった。

（５）夏休みキッズウィーク

事務局：－資料20の説明－

（意見・質問）

委員：集客目標には達しているのに、評価が「B」になっている。どういった課題があるのか。

事務局：掲載を依頼した広報まちだに載らず媒体を活用できなかったのが、「B」評価にした。しかし、児童青少年課発行の「夏休みキッズウィーク」に掲載され、ほとんど定員が埋まったという経緯がある。

委員：イベントには冊子などの媒体が有効ということになるか。冊子以外で集客に効果的だったと思う媒体はあるか。

事務局：今回は例年より早い時期に学校を通じて配布されたため、非常に有効だった。

<報告事項>

1、事業評価の最終報告

事務局：報告1・2について、資料のとおり報告する。

2、センター長報告

○一般質問について

生涯学習部の関連では、森本せいや議員から「鶴川駅前図書館の利便性向上について」、川畑一隆議員

から「鎌倉古道の文化財登録を求めて」、「大活字図書の整備充実を求めて」、三遊亭らん丈議員から「図書館のあり方について」の質問があった。詳細については、町田市ホームページをご覧いただきたい。

○決算特別委員会について

9月17日に前年度の決算特別委員会が実施された。併せて、町田市ホームページをご覧いただきたい。

○その他

第82回NHK全国学校音楽コンクール全国コンクールで、鶴川第二中学校合唱団が中学校の部で金賞、鶴川第二小学校合唱団が小学校の部で銀賞を獲得した。

3、東京都公民館連絡協議会の活動について

○委員部会について

委員：11月14日関東甲信越静岡ブロック研修大会兼東京都研究大会が実施される。基調講演「持続可能な社会づくりと公民館」、シンポジウム「持続可能な社会づくりと公民館の新たな可能性」といった内容であり、ぜひご参加いただきたい。また、次回の運営協議会のテーマである「地域を育てる」のゴールをどこに置くかという点においても、マッチした内容である。委員部会の研修会が9月26日に実施される。「市民力を活かした公民館運営、事業の設定」というテーマで、小金井市、国立市、町田市が事例発表を行う。

4、その他報告事項

○当日配布資料について

今後の運営協議会の日程表、生涯学習センターまつりのチラシを配布した。

生涯学習センターまつりは、10月23、24、25日に実施する。展示は20団体、発表は27団体が参加し、オープニングは玉川大学学生有志による演奏を行う。

<その他>

会長：次回は11月30日月曜日10時～町田市生涯学習センター6階学習室2で開催する。